兵庫県三田市のニュータウンにおける居住者の地域活動への参加意向等の分析 — 郊外ニュータウンの持続的発展方策に関する基礎的研究 (その3) —

ANALYSIS OF CONDITIONS AND INTENSION OF PARTICIPATION ABOUT COMMUNITY ACTIVITIES BY RESIDENTS OF NEW TOWNS IN SANDA-CITY, HYOGO PREF.

— A study on the measures to develop suburban new town sustainability Part 3 —

三好 庸隆^{*1}, 柏原 士郎^{*2}, 吉村 英祐^{*3}

横田 隆司^{*3}, 飯田 匡^{*4}, 川村 崇^{*5}

Tsunetaka MIYOSHI, Shiro KASHIHARA, Hidemasa YOSHIMURA,
Takashi YOKOTA, Tadasu IIDA and Takashi KAWAMURA

The aim of this research is to gain some basic knowledge which helps planning a sustainable development of suburban new town community by analyzing conditions & intension of participation about community activities by residents. We research in typical suburban new towns in Kansai-area, which are Woody-town & Flower-town in Sanda-city. Main findings are as follows:

1. residents hope *machizukuri* under the leadership of the citizens but they show a negative attitude toward community activities
2. there is a high correlation between intension of permanent resident and conditions of participation about community activities
3. there are some differences among residents of different building-types about conditions of participation about community activities.

Keywords: community activities, sustainable community, intension of participation, permanent resident, questionnaire survey

地域活動, 持続的コミュニティ, 参加状況, 定住, アンケート調査

1. はじめに

1-1 研究の背景と目的

既報^{文2,3)}の「研究の背景と目的」に示したように、人口減少社会・高齢社会を迎えつつあるとともに、大都市圏での地価下落傾向に伴う「都心回帰」という現象の中で、郊外ニュータウン（以下NT）は様々な課題を抱える^{注1)}。第1報^{文2)}においては、居住地選択理由、定住意向（定住率）と住環境評価、転出希望理由、将来イメージなどについて詳細な分析を行った。第2報^{文3)}においては、郊外NTの持続的発展をめざす上での重要指標である定住意向と地域施設満足度とに関連性が認められることから、地域施設に焦点をあてた分析を行った。ところで、人口減少社会を前提とした持続的コミュニティ形成を考えるには、①限られた施設の多様な使い方、②サービスの担い手、住民の生きがいがいづくりという面からの住民参加、③それらを統括するためのタウンマネジメント的組織のあり方などが課題となる、と考えられる。このような課題解決にむけては、住民の住民による住民のためのコミュニティづくり、コミュニティ形成の多様な過程における居住者参加、という視点を抜きにすることはできない。

本研究は、居住者の地域活動への参加が、NTにおける住民主導のまちづくり・コミュニティづくり・コミュニティ形成過程における居住者参加を促進するという仮説のもと、それらがどのように関

図1. 対象地区、比較対象地区の位置

本研究は文1)をもとに、加筆・修正を加えたものである。

^{*1} PPI計画・設計研究所 代表取締役所長・工修

^{*2} 大阪大学大学院工学研究科建築工学専攻 教授・工博

^{*3} 大阪大学大学院工学研究科建築工学専攻 助教授・博士(工学)

^{*4} 大阪大学大学院工学研究科建築工学専攻 助手・博士(工学)

^{*5} PPI計画・設計研究所 元所員・工修

President, PPI Co., Ltd., M. Eng.

Prof., Graduate School of Eng., Osaka Univ., Dr. Eng.

Assoc. Prof., Graduate School of Eng., Osaka Univ., Dr. Eng.

Assistant Prof., Graduate School of Eng., Osaka Univ., Dr. Eng.

Ex-member of the Staff, PPI Co., Ltd., M. Eng.

連しているかを明らかにしていくことを目的に、郊外NT居住者の居住するNT及び地域活動への関心度・参加状況を明確にするとともに、地域活動への参加意向等の分析を行うものである。研究対象地区として、(その1)(その2)に引き続き、母都市である大阪、神戸の両都市圏の最外縁部に位置する郊外NTである兵庫県三田市のウッドタウン(以下WT)とフラワータウン(以下FT)を取り上げ、一部の調査項目について相対的に比較するための比較対象地区として、WTとFTの母都市である大阪市と神戸市の中間部に位置し、かつ山麓部と平坦部の既成市街地とNTエリアを持つ芦屋市を取り上げた。

既往研究として、千里NTについては、久保・西村他⁵⁾、伊東・高田⁶⁾などがある。ジェンダーの視点からの論文としては、影山⁷⁾がある。またコミュニティ活動の支援方策をテーマとした研究として、畑⁸⁾北川⁹⁾などがある。本研究の問題意識に比較的近い研究としては、水野・角野¹⁰⁾、小谷¹¹⁾や、海道¹²⁾などがある。このような中で、本研究は、郊外NT居住者を対象に、居住者の属性別に詳細に地域活動への参加意向等を調査したことに特色がある。研究対象NTについては、本研究目的から①最も早く人口減の可能性があり、母都市から遠距離かつ都市圏の最外縁部に位置するNTであること、②母都市との位置関係が単純で判りやすいこと、等の条件が求められることから、WTとFTを採用している¹³⁾。

1-2 対象地区、比較対象地区の概要

図1、2と表1にその位置と概要を示す¹³⁾。

1-3 研究方法

NTにおける住民主導のまちづくり・コミュニティづくり・コミュニティ形成過程における居住者参加を活性化していくためにはコミュニティ形成の重要性を単に啓発するのみならず、何らかの地域活動への参加を通じたフェイス・ツー・フェイスの活動が不可欠であるという仮説のもとに、NT居住者へのアンケート調査を行うことにより、地域活動への参加意向等を明らかにする。アンケート票は1戸あたり家族用1部と個人用4人分(4部)¹⁴⁾の回答用紙を配布し、家族用については家族の代表者に、個人用については中学生以上の家族に回答を依頼した。比較対象地区である芦屋全体(芦屋NTを含む)においても同様のアンケート調査を実施した¹⁵⁾と¹³⁾。アンケートの実施状況を表2に、調査項目の概要および属性、調査を行った地域活動を表3、4、5に示す。本論ではまず対象地区および比較対象地区において、それぞれの地域活動に対する現在の参加状況と将来の参加意向について比較分析を行い(2章)、次に地域活動に対する参加意向と住宅タイプ、居住歴、定住意向との関係について分析した(3章)。さらにそれぞれの地域活動について関心の高い属性を分析し(4章)、多変量解析により、さらに地域活動タイプと参加者タイプの関係を考察する(5章)ことで、NTにおける居住者の地域活動に対する現状の意識、地域活動の醸成とNTの持続的コミュニティ形成にむけての課題の把握を行った。

なお、本論文で用いる「参加意向評価」とは、地域活動の現在の参加状況と将来の参加意向を定量化するため、表5の地域活動について回答者に「現在参加している」、現在参加していないが「将来参加したい」「将来も参加したくない」を選択してもらい、ここで「現在参加している」「将来参加したい」を(+1)、「将来も参加したくない」を(-1)とし、その平均値を参加意向評価とした。

図2. 芦屋市概略

表1. 対象地区の概要

	事業主体	事業手法	街びらき	面積 計画人口	現在人口
WT	住宅・都市整備公社 (現都市基盤整備公社)	新住宅市街地 開発事業	昭和62年 (1987年)	598ha 48,000人	27,165人 (H12年度)
FT	兵庫県	新住宅市街地 開発事業	昭和56年 (1981年)	337ha 34,000人	24,391人 (H12年度)
芦屋市全体	-	-	-	1,857ha (都市計画区域)	84,541人 (H13年度)
芦屋NT	兵庫県(※)	新住宅市街地 開発事業	昭和54年(※) (1979年)	127ha 20,000人(※)	13,941人 (H13年度)

(※)は「芦屋派シーサイドタウン」におけるデータを示す。

表2. 各地区のアンケート実施状況

	WT	FT	芦屋市全体 (含芦屋NT)	芦屋NT
配布日	2000年11月10日	2000年11月10日	2001年10月27日	2001年10月27日
配布件数 (家族/個人)	1000/4000	1000/4000	2300/9200	550/2200
回収件数 (家族/個人)	178/336	178/328	441/755	88/138
家族回収率	17.8%	17.8%	19.2%	16.0%
配布・回収方法	各戸配布、郵送回収			

表3. アンケート項目の概要

属性(個人)	属性(家族)	調査項目(個人)
性別 年齢 職業	居住歴 居住エリア 住宅タイプ	定住意向 地域活動の参加状況 NTに望む将来像

表4. 回答者の属性

		研究対象地区				比較対象地区	
		ウッドタウン<WT>		フラワータウン<FT>		芦屋全体(芦屋NT含)	
		回答者数	回答者割合	回答者数	回答者割合	回答者数	回答者割合
性	全体	336人	100.0%	328人	100.0%	755(138)人	100.0(100.0)%
	男	147人	43.8%	150人	45.7%	302(56)人	40.0(40.6)%
	女	185人	55.1%	174人	53.0%	433(77)人	57.4(55.8)%
	無回答	4人	1.2%	4人	1.2%	20(5)人	2.6(3.6)%
年齢	10代	27人	8.0%	30人	9.1%	22(5)人	2.9(3.6)%
	20代	26人	7.7%	29人	8.8%	44(4)人	5.8(2.9)%
	30代	77人	22.9%	43人	13.1%	91(12)人	12.1(8.7)%
	40代	90人	26.8%	80人	24.4%	89(13)人	11.8(9.4)%
	50代	53人	15.8%	60人	18.3%	146(32)人	19.3(23.2)%
	60代	39人	11.6%	59人	18.0%	188(41)人	24.9(29.7)%
	70代	19人	5.7%	24人	7.3%	165(27)人	21.9(18.6)%
	無回答	5人	1.5%	3人	0.9%	10(4)人	1.3(2.9)%
職業	会社員・公務員	133人	39.6%	108人	32.9%	186(27)人	24.6(19.6)%
	自営業	10人	3.0%	12人	3.7%	70(17)人	9.3(12.3)%
	パート	26人	7.7%	39人	11.9%	40(9)人	5.3(6.5)%
	専業主婦	100人	29.8%	72人	22.0%	227(38)人	30.1(27.5)%
	学生	28人	8.3%	38人	11.6%	36(7)人	4.8(5.1)%
	無職	25人	7.4%	46人	14.0%	144(27)人	19.1(18.6)%
	その他	11人	3.3%	9人	2.7%	34(8)人	4.5(5.8)%
	無回答	3人	0.9%	4人	1.2%	18(5)人	2.4(3.6)%

表5. 調査を行った地域活動

地域活動	略表記
趣味・娯楽、スポーツ等のサークル活動	①趣味・娯楽、スポーツ等
勉強、学習、教養に関するサークル活動	②勉強、学習、教養
ボランティア活動	③ボランティア
周辺の公園や道路、ゴミ置き場等の掃除、緑の維持管理	④掃除、維持管理
高齢者や障害者のための介護・福祉的な活動	⑤介護・福祉
地域住民が交流できるようなイベント	⑥交流イベント
ゴミ問題やリサイクルに関する活動	⑦ゴミ問題、リサイクル
子供達の遊びを誘発させたり体験学習させるような活動	⑧子供の遊び、体験学習
学校開放によるグラウンドや体育館での活動	⑨学校開放
インターネット自治会	⑩インターネット自治会
フリーマーケットの企画・運営や出店	⑪フリーマーケット
子育てサークル等、相互に母親を支援する活動	⑫母親支援
地域の集会所の管理・運営	⑬集会所施設管理・運営
地域情報誌づくり	⑭地域情報誌づくり

2. 地域活動の現在の参加状況と将来の参加意向

WT、FTおよび芦屋全体、芦屋NTにおいての地域活動に対する参加状況と将来の参加意向を把握した。

2-1 地区別の地域活動参加状況

地区別の地域活動参加状況を見ると(表6)、WT、FTと芦屋市全体とは、概ね同様の参加率であることが判る。男女の地域活動への参加状況を見ると、いずれの地区においても女性の参加率が10%強高い。芦屋NTは参加率が高く^{注6)}、逆に芦屋NT以外は参加率がやや低調である。また、有効回答数に対する参加意向(現在+将来)のある人の比率は、いずれの地区においても90%を越えており、住民が何らかのかたちで、地域活動への高い関心を持っていることがうかがえる。

2-2 地区別の地域活動参加意向評価

NT全体(WT+FT)、WT、FT、芦屋全体、芦屋NTについて各活動の参加意向評価を算出し、それぞれの活動についてNT全体で評価値の高い順に並べたものを示す(図3)。ここでWT、FTともに同様の傾向を示しており、「趣味・娯楽、スポーツ等のサークル活動」「勉強、学習、教養に関するサークル活動」等の個人の視野や教養を高めるような活動に対する参加意向評価が最上位に並び、「地域情報誌づくり」「地域の集会施設の管理・運営」といった地域コミュニティに奉仕するような活動に対する参加意向評価が最下位に並ぶ。既成市街地である芦屋全体でも、ほぼ同様の傾向を示し、対象としたNTと既成市街地における地域活動の参加意向に大きな差異は認められなかった。一方、芦屋NTでは「周辺の公園や道路、ゴミ置き場等の掃除、緑等の維持管理」「高齢者や障害者のための介護・福祉的な活動」「地域住民が交流できるようなイベント」「ゴミ問題やリサイクルに関する活動」といった、地域環境や対人交流に関係する活動参加意向評価が相対的に高い。

2-3 地区別の地域活動の参加状況と参加意向

それぞれの地域活動に対して「現在参加している」、現在は参加していないが「将来参加したい」、「将来も参加したくない」および「無回答」の回答者の割合に着目し、どのような参加状況と参加意向があるかを分析した。それぞれの活動について回答者の割合と回答者数を図4に示す。多くの活動で「現在参加している」、「将来参加したい」人の割合が芦屋全体、芦屋NTでWT、FTより高く、WT、FTの参加意向が相対的に低いといえる。

次にNT全体(WT+FT)について、「現在参加している」割合の高い活動を見ると、「掃除、維持管理」(17.5%)、「趣味・娯楽、スポーツ等」(15.5%)が挙げられる。前者は各自治会等で当番制等、参加の義務付けられている活動、後者は個人的欲求を満たすための活動だと考えられる。

「将来参加したい」割合の多い活動としては「趣味・娯楽、スポーツ等」(44.3%)、「勉強、学習、教養」(40.7%)、「ボランティア」(37.8%)、「介護・福祉」(37.0%)、「交流イベント」(34.5%)、「ゴミ問題、リサイクル」(30.3%)、「子供の遊び、体験学習」(27.6%)、「インターネット自治会」(27.1%)、「学校開放」(26.8%)、「掃除、維持管理」(26.4%)が挙げられる。ここでは「趣味・娯楽、スポーツ等」「勉強、学習、教養」など個人的欲求を満たす活動の他「介護・福祉」、「交流イベント」「ゴミ問題、リサイクル」などの地域社会との関わりを意識するような活動も見うけられる。

表6. 地区別の地域活動参加状況

	WT		FT		WT+FT		芦屋市全体		芦屋NT		芦屋NT以外	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
総回答数(人)	147	185	150	174	297	359	302	433	56	77	246	356
(性別無回答)(人)	4		4		8		20		5		15	
(合計)(人)	336		328		664		755		138		617	
総回答数に対する有効回答数の比率(%)	78.2	79.4	84.0	78.7	81.1	79.1	96.3	95.6	96.4	97.4	96.3	95.2
有効回答数に対する現在参加している人の比率(%)	32.1	44.9	36.5	45.2	34.4	45.0	31.6	43.2	44.4	58.6	28.6	39.8
有効回答数に対する現在未参加で将来参加したい人の比率(%)	58.2	50.3	57.9	47.4	58.0	48.9	60.4	50.9	51.8	38.6	62.4	53.6
有効回答数に対する参加意向(現在+将来)のある人の比率(%)	90.4	95.2	94.4	92.7	92.5	94.0	92.1	94.2	96.3	97.3	91.1	93.5

図3. 地区別地域活動の参加意向評価

また、一定の参加義務があると考えられる「掃除、維持管理」についても自主的に参加したい、という意向を持つ人が多くいることがわかる。

「将来も参加したくない」割合が高く、かつ「将来参加したい」割合の少ない活動には「地域情報誌づくり」(「将来も参加したくない」56.0%)、「集会施設の管理・運営」(同 53.5%)、「母親支援」(同 46.2%)、「フリーマーケット」(同 43.4%)がある。また、WT、FTではほとんどの活動に対して無回答の割合が25.0%を超えており、また芦屋全体、芦屋NTよりもその割合が高いことから、WT、FTにおける参加意識の特性として地域活動そのものに対する関心が低いのではないかと推測される。

3. 地域活動参加意向と居住条件や意識等との関連性

NTにおける地域活動に対する参加意向評価が回答者の住宅タイプ、住み続けていること(居住歴)、住み続けたいという意識(定住意向)とどのような関連性を持っているのか分析を行った。

3-1 住宅タイプ別参加意向評価

次にWT、FTにおいて住宅タイプ(戸建て住宅、分譲集合住宅、賃貸集合住宅)ごとに、他の住宅タイプと比較し、参加意向評価が最も高い活動、最も低い活動を表7に示す。地区に関わらず各住宅

図4. 地域活動の参加状況と参加意向

タイプで共通する活動をみると、戸建て住宅の居住者の参加意向が最も高い活動は「ボランティア」、「掃除・維持管理」、「ゴミ問題・リサイクル」、「地域情報誌づくり」で、周辺地域に貢献するような活動が多い。分譲集合住宅の居住者の参加意向評価が最も高い活動は非常に少ない。また分譲集合住宅で最も参加意向評価の低い活動に「交流イベント」が挙げられているが、一方で賃貸集合住宅では最も高い活動であった。

3-2 居住歴別活動参加意向評価

回答者が「まちに住み続けていること」と地域活動に対する関心にどのような関係性を持っているかを把握するため、回答者の居住歴を3年未満、3年以上10年未満、10年以上に分類し、WT、FT、芦屋全体、芦屋NTにおいて居住歴が増すにつれて参加意向評価が高くなる活動を分類した(表8)。各地区で共通する活動は「ゴ

表7. 各住宅タイプ別で参加意向評価の高い活動および低い活動

	戸建て(n=181)	分譲集合(n=81)	賃貸集合(n=43)
WT	他の住宅タイプより参加意向評価が高い活動 ボランティア (0.38, 0.19, -0.21) 掃除・維持管理 (0.37, 0.03, -0.27) 介護・福祉 (0.07, 0.07, -0.27) ゴミ問題・リサイクル (0.19, -0.05, -0.43) 集会所施設管理・運営 (-0.58, -0.61, -0.82) 地域情報誌づくり (-0.68, -0.68, -0.76)	インターネット自治会 (-0.20, -0.17, -0.52)	趣味・娯楽・スポーツ等 (0.49, 0.58, 0.71) 勉強・学習・教養 (0.25, 0.00, 0.27) 交流イベント (0.15, -0.07, 0.35) 子供の遊び・体験学習 (-0.22, 0.04, 0.25) 学校開放 (-0.12, -0.19, -0.03) フリーマーケット (-0.37, -0.38, -0.19) 母親支援 (-0.46, -0.48, 0.03)
	他の住宅タイプより参加意向評価が低い活動 趣味・娯楽・スポーツ等 (0.49, 0.58, 0.71) 子供の遊び・体験学習 (-0.22, 0.04, 0.25) フリーマーケット (-0.37, -0.38, -0.15) 母親支援 (-0.46, -0.48, 0.03)	勉強・学習・教養 (0.25, 0.00, 0.27) 交流イベント (0.15, -0.07, 0.35) ゴミ問題・リサイクル (0.19, -0.05, -0.43) 学校開放 (-0.12, -0.19, -0.03)	ボランティア (0.38, 0.19, -0.21) 掃除・維持管理 (0.37, 0.03, -0.27) 介護・福祉 (0.07, 0.07, -0.27) インターネット自治会 (-0.20, -0.17, -0.52) 集会所施設管理・運営 (-0.56, -0.61, -0.82) 地域情報誌づくり (-0.68, -0.68, -0.76)
FT	他の住宅タイプより参加意向評価が高い活動 勉強・学習・教養 (0.47, 0.08, 0.18) ボランティア (0.38, 0.16, 0.29) 掃除・維持管理 (0.43, -0.06, 0.3) ゴミ問題・リサイクル (0.19, -0.05, -0.43) 子供の遊び・体験学習 (-0.13, -0.20, -0.38) 学校開放 (0.04, -0.26, -0.43) インターネット自治会 (-0.04, -0.18, -0.33) フリーマーケット (-0.21, -0.23, -0.33) 地域情報誌づくり (-0.59, -0.71, -0.60)	趣味・娯楽・スポーツ等 (0.59, 0.63, 0.37)	介護・福祉 (0.23, 0.19, 0.53) 交流イベント (0.13, -0.02, 0.18) 母親支援 (-0.48, -0.59, -0.38) 集会所施設管理・運営 (-0.44, -0.68, -0.33)
	他の住宅タイプより参加意向評価が低い活動 なし	勉強・学習・教養 (0.47, 0.08, 0.18) ボランティア (0.38, 0.16, 0.29) 掃除・維持管理 (0.43, -0.06, 0.3) 介護・福祉 (0.23, 0.19, 0.53) 交流イベント (0.13, -0.02, 0.18) 母親支援 (-0.48, -0.59, -0.38) 集会所施設管理・運営 (-0.44, -0.68, -0.33) 地域情報誌づくり (-0.59, -0.71, -0.60)	趣味・娯楽・スポーツ等 (0.59, 0.63, 0.37) ゴミ問題・リサイクル (0.19, -0.05, -0.43) 子供の遊び・体験学習 (-0.13, -0.20, -0.38) 学校開放 (0.04, -0.26, -0.43) インターネット自治会 (-0.04, -0.18, -0.33) フリーマーケット (-0.21, -0.23, -0.33)

(, ,) : 順に「戸建て」、「分譲集合」、「賃貸集合」の参加意向評価

ミ問題、リサイクル」であった。またWTおよびFTでは比較的多くの活動が居住歴が増すにつれて参加意向評価が高まっているが、芦屋全体および芦屋NTでは非常に少なく、芦屋全体ではむしろ居住歴が増すにつれて参加意向評価が減じている活動が多い(表9)。WT、FTにおいて居住歴に応じて参加意向評価が高まる地域活動として共通してみられるものは「ボランティア」、「交流イベント」、「ゴミ、リサイクル」、「インターネット自治会」、「地域情報誌づくり」といった地域に対し何らかの貢献、関わりを持つような活動が挙げられている。

3-3 定住意向別参加意向評価

次に「まちに住み続けたい」意識と地域活動に対する関心にどのような関係があるか、回答者の定住意向別にそれぞれの地域参加意向評価を算出し、「定住」と答えた人が「転出希望」よりも参加率の高い活動を分類した(表10)。WT、FT、芦屋全体、芦屋NTに共通する活動は見られなかった。またWT、FTでは芦屋全体、芦屋NTと比較し「定住」と答えた人がより多くの地域活動に対する関心が高いことがわかる。共通する活動には「趣味・娯楽、スポーツ等」、「勉強、学習、教養」、「ボランティア」、「掃除、維持管理」、「介護・福祉」、「ゴミ問題、リサイクル」、「インターネット自治会」、「集会施設管理・運営」、「地域情報誌づくり」と調査した地域活動の過半を超える。NTに住み続けたいと考える人たちが、同時に地域社会に何らかのかたちに関わりを持ちたいという意識を持っていることを読み取ることができる。

4. 属性ごとの地域活動参加意向評価

WT、FTの地域活動は、比較対象地区と比べて、相対的に活発とは言えない。しかし、その原因は「NTは既成市街地と異なり新しいまちだから」ということではないこと、また潜在的に参加意向を持つ割合が高い活動も多く見うけられることがわかった。ここでそれぞれの地域活動に対してどのような属性が関心を持っているのか、各地域活動の初動期のキーパーソンがどのような属性に存在しそうかを把握するために、WT、FTの回答者全体に対し性、年齢階層によって分類した属性ごとに各活動の参加意向評価を分析した。図5にそれぞれの活動について各属性の参加意向評価および最も評価値の高い属性を示す。各地域活動の参加意向評価は回答者の属性によって差異が認められる。

以下に各地域活動について参加意向評価の高さを地域活動への相対的な関心の高さとしたときの特性を示す。

- ①「趣味・娯楽、スポーツ等」は各属性とも関心が高い。
- ②「勉強、学習、教養」は男女とも30代から60代の中高年で関心が高い。
- ③「ボランティア」は50代男女の関心が最も高く、若い男性では10代の関心は高いものの、職業、家庭にける時間が多いと考えられる20、30代では急激に低下する。
- ④「掃除、維持管理」は年齢が高くなるにつれ関心が高まる。
- ⑤「介護・福祉」は60代がピークとなっており、自分が介護の対象となるかもしれないことや、自分の親を介護しなければならないかもしれないこと(老老介護)などから関心が高くなっていると考えられる。また10代から40代にかけては女性の関心が強い。
- ⑥「交流イベント」は10代、20代の男女および30代の男性での関

表8. 居住歴が増すにつれて参加意向評価が高まる地域活動

WT	FT	芦屋全体	芦屋NT
ボランティア (-0.35→-0.32→-0.50)	趣味・娯楽、スポーツ等 (0.47→0.59→0.62)	掃除、維持管理 (0.09→0.21→0.35)	ゴミ問題、リサイクル (0.11→0.33→0.35)
掃除、維持管理 (-0.1→-0.19→-0.41)	ボランティア (-0.06→-0.31→-0.40)	ゴミ問題、リサイクル (0.13→0.19→0.32)	
交流イベント (-0.17→-0.17→-0.27)	交流イベント (-0.21→-0.11→-0.17)		
ゴミ問題、リサイクル (-0.19→-0.11→-0.24)	ゴミ問題、リサイクル (-0.21→-0.02→-0.30)		
学校開放 (-0.32→-0.12→-0.05)	インターネット自治会 (-0.44→-0.14→-0.06)		
インターネット自治会 (-0.41→-0.25→-0.05)	フリーマーケット (-0.38→-0.25→-0.13)		
地域情報誌づくり (-0.90→-0.67→-0.56)	地域情報誌づくり (-0.75→-0.72→-0.47)		

(→) : 順に居住歴3年未満、3年以上10年未満、10年以上の参加意向評価

表9. 居住歴が増すにつれて参加意向評価が減る地域活動

WT	FT	芦屋全体	芦屋NT
なし	子供の遊び、体験学習 (-0.03→-0.13→-0.27)	趣味・娯楽、スポーツ等 (0.61→0.59→0.54)	なし
		子供の遊び、体験学習 (0.21→0.19→-0.05)	
		インターネット自治会 (-0.04→-0.11→-0.19)	
		フリーマーケット (-0.18→-0.25→-0.34)	
		母親支援 (-0.18→-0.28→-0.29)	

(→) : 順に居住歴3年未満、3年以上10年未満、10年以上の参加意向評価

表10. 「定住」が「転出希望」より参加意向評価の高い地域活動

WT (定住n=199) (転出希望n=128)	FT (定住n=183) (転出希望n=127)	芦屋全体 (定住n=584) (転出希望n=91)	芦屋NT (定住n=98) (転出希望n=19)
趣味・娯楽、スポーツ等 (0.57)(0.56)	趣味・娯楽、スポーツ等 (0.63)(0.50)	掃除、維持管理 (0.29)(0.24)	趣味・娯楽、スポーツ等 (0.71)(0.56)
勉強、学習、教養 (0.25)(0.00)	勉強、学習、教養 (0.44)(0.21)	交流イベント (0.24)(0.21)	勉強、学習、教養 (0.48)(0.33)
ボランティア (0.27)(0.14)	ボランティア (0.39)(0.12)	集会施設管理・運営 (-0.41)(-0.47)	ボランティア (0.33)(0.23)
掃除、維持管理 (0.23)(0.08)	掃除、維持管理 (0.38)(-0.07)		ゴミ問題、リサイクル (0.33)(0.26)
介護・福祉 (0.04)(-0.10)	介護・福祉 (0.30)(0.19)		学校開放 (-0.06)(-0.19)
ゴミ問題、リサイクル (0.11)(-0.03)	交流イベント (0.26)(-0.23)		
インターネット自治会 (-0.22)(-0.42)	ゴミ問題、リサイクル (0.09)(-0.13)		
集会施設管理・運営 (-0.55)(-0.77)	子供の遊び、体験学習 (-0.11)(-0.19)		
地域情報誌づくり (-0.66)(-0.74)	学校開放 (0.03)(-0.38)		
	インターネット自治会 (0.05)(-0.39)		
	集会施設管理・運営 (-0.41)(-0.76)		
	地域情報誌づくり (-0.56)(-0.72)		

() () : 順に「定住」、「転出希望」の参加意向評価

心は低い、それ以上の年齢階層での関心は高い。特に30代女性の関心が高い。

⑦「ゴミ問題、リサイクル」は年齢階層によって差異があるが年齢とともに関心が高くなる傾向がみられ、前出の「掃除、維持管理」と類似した傾向を示す。

⑧「子供の遊び、体験学習」は10代から30代の比較的若い世代で特に女性の方が関心が高いが、幼少の子育て期を終えると考えられる40代以降で関心が低下する。

⑨「学校開放」は20、30代の女性、40代以降の男性で比較的関心があり、男女全体でみると年齢による大きな差異はみられない。

⑩「インターネット自治会」は女性よりも男性の関心が高く50代がピークとなっている。「自治会」との関係が薄いと考えられる若い年齢階層や、「パソコン環境」と関係が少ない人が多いと考えられる高齢層での関心が低い。

⑪「フリーマーケット」は年齢階層が上がるにつれて参加意向評価が下がる傾向にあり、若い世代、特に女性の関心が高い。

⑫「母親支援」は子育て世代が多いと考えられる20、30代女性の関

図5. 性、年齢階層別地域活動参加意向評価

心が高いが同世代の男性の関心は女性に比べ非常に低い。

⑬「集会所の管理・運営」は他の活動と比較し関心は低く、また性によって差異が大きく、男性の関心が高い。

また年齢が高くなるにつれて関心も高まり定年退職者が多いと考えられる60、70代での関心が高い。

⑭「地域情報誌づくり」も「集会所の運営・管理」と似た傾向を示し、相対的な関心は低く、また年齢が高くなるにつれ関心もやや高くなる。

5. 多変量解析による分析

以上の結果を踏まえて、ここでは多変量解析を用いて参加活動と回答者の関係をさらに考察する。

5-1 参加活動のグルーピング

回答者の参加意向評価 (<参加している>と<参加したい>)を第1グループ、<参加したくない>を第2グループとするもの) データの中で欠損値のあるものを除き、参加活動を数量化Ⅲ類で分析した結果の一例を図6に示す(図中番号は、表5に示す地域活動番号に対応している)。図6は得られた第3軸までの各参加活動のカテゴリー値をプロットしたものであり、参加活動は図中の点線枠のよう

図6 数量化Ⅲ類による参加活動の分析結果

に4つのグループに分けられた。すなわち、1つ目は、①②⑥という成年女性の参加が比較的多い自己啓発活動型、2つ目は、③④⑤⑦という地域や弱者への支援活動型、3つ目は、⑧⑨⑩⑪⑫という家族での参加活動型、4つ目は⑬⑭⑮という自治会等への参加活動型である。

5-2 回答者のグルーピング

一方で、回答者の参加活動に関する特徴として、4章までの分析で用いた属性以外のものを調べることを目的にクラスター分析を行う。5-1と同様、欠損値のある回答者データを除外して、参加意

向の3つの選択肢（＜参加している＞＜参加したい＞＜参加したくない＞）のデータをクラスター分析（ウォード法）した結果、回答者を大きく6つのグループに分けることができた。

以下、グループごとの参加意向をみる（図7、8）。図7はグループ毎の回答者の年齢構成割合を示し、図8はグループごとに各参加活動への参加意向構成割合を示している。なお、グループ1、2、3、4の順で戸建て居住者の割合が減る傾向にある。

【グループ1、2】

このグループには30～40才の成年者が比較的多い。グループ1はどの活動にも積極的参加しており、紙面の都合で図には示していないが、属性としては専業主婦が多い。グループ2は参加の意思は高いものの実際には参加していないという回答パターンを示している。

【グループ3、4】

このグループには50才以上の高齢層が比較的多い。グループ3は全般に参加の意思は低いが、＜清掃、維持管理＞のみ参加が高いパターンである。グループ4はさらに参加の意思が低いものの、相対的に＜交流イベント＞や＜ボランティア＞への参加意思が高いパターンである。

【グループ5、6】

このグループには比較的若年・学生層が多く、定住意向は低い。グループ5はグループ2と同様、参加の意思は高いが実際に参加していないパターン。グループ6は全く参加の意思が見られないグループである。

以上のことから、グループ1を地域活動のリーダーとして育てる方策、グループ2や5のように参加意向は高いが参加できていない層の参加促進策、ならびにグループ3や4のように特定の活動への参加意向が高い層における参加活動の枠を広げることなどが課題で

あると考えられる。

6. まとめ

三田市WT、FTにおける居住者の地域活動への参加状況、意向について、今回のアンケート調査から分析することが出来た主な項目をまとめると、次の通りである。

- 1) 郊外NTであるWT、FTと既成市街地である芦屋市全体とは、ほぼ同様の参加率であった。男女の地域活動への参加状況を見ると、いずれの地区においても女性の参加比率が10%強高い。また参加意向（現在+将来）は、各地区で90%を超えており、地域活動への潜在的な関心は高いことがうかがえた。
- 2) WT、FT、芦屋全体、芦屋NTのそれぞれの地区において、地域活動内容と参加意向評価は同様の傾向が見られた。即ち「趣味、娯楽、スポーツ等のサークル活動」「勉強、学習、教養に関するサークル活動」等の個人の視野や教養を高めるような活動に対する参加意向評価が高く、逆に「地域情報誌づくり」「地域の集会施設の管理・運営」といった地域コミュニティに奉仕するような活動

図7 グループ別にみた年齢構成の割合

図8 グループ別にみた各活動の参加意向

に対する参加意向評価が低い傾向がみられた。

- 3) 住宅タイプ別に地域活動への参加状況、意向をみると「戸建て」居住者の場合において「周辺の公園や道路、ゴミ置き場等の掃除、緑の維持管理」活動に現在参加している人が比較的多くみられた。また分譲集合住宅と賃貸集合住宅居住者を比較すると、相対的に前者の参加意向評価が低い傾向がみられた。
- 4) 居住歴別（10年以上、3年以上10年未満、3年未満）に、地域活動への参加状況と将来の参加意向を分析したが、WT、FTでは、居住歴が増すごとに参加意向評価が高くなる活動が多く、「ボランティア」、「交流イベント」、「ゴミ、リサイクル」、「インターネット自治会」、「地域情報誌づくり」といった地域に対して何らかの貢献、関わりを持つような活動を挙げることができた。
- 5) 定住意向別の地域活動への参加意向については、特に「周辺の公園や道路、ゴミ置き場の掃除」「ボランティア活動」「地域の集会所施設の管理・運営」等の活動について、転出を希望する居住者より定住を希望する居住者の参加意向が高い傾向がみられた。
- 6) 地域活動の内容別に参加意向評価の高い属性を読み取ることができた。例えば、持続的コミュニティ形成にむけて今後重要になると考えられる地域活動について見ると「ボランティア」は50代男女の関心が最も高く、「掃除、維持管理」「ゴミ問題、リサイクル」は年齢が高くなるにつれて関心が高まり、「交流イベント」は30代女性の関心が高く、「インターネット自治会」は女性より男性の関心が高く50代がピーク、という傾向が見られた。
- 7) 参加活動を数量化Ⅲ類でグルーピングした結果、アンケート回答者のみであるが、「自己啓発活動型」、「地域や弱者への支援活動型」、「家族での参加活動型」、「自治会等への参加活動型」の4つのグループに参加活動傾向を構造化することができた。また、アンケート回答者に限られるが、地域活動のリーダーとして育てるべき層、参加意向は高いが参加できていない層、特定の活動への参加意向が高い層の存在が明らかになった。そうした各層に対応した地域活動への参加を広げる方策の模索が今後の課題になるものと考ええる。

7. 今後の課題

コミュニティの持続的形成にむけて、地域に何らかのかたちで関与していくタイプの地域活動の醸成が求められていくものと考えられるという視点から、本調査では、居住者の地域活動への参加意向傾向について概要を把握することができた。対象地区が2ヶ所のNTであること、家族回収率が18%前後であることから、今後調査事例を増やすことが重要である。そのことにより、地域活動活性化にむけての拠点づくり、地域活動の担い手となる人材の育成手法、地域活動テーマの設定の仕方、居住者主導型のまちづくりへの誘導手法等に、研究テーマを発展させることができるものと考ええる。

謝辞：NT住民の方々と本研究に協力を得た倉橋尉仁氏と小島幸子氏（いずれも当時；大阪大学大学院生）に対して感謝します。

注

- 1) たとえば、福原正弘：甕れニュータウン、古今書院、2001年
- 2) 筆者（三好）は、ウディタウンについては計画段階（1982年～）から今日に至るまで多様な局面において、民間コンサルタント、建築設計者の立場から参画しており、ウディタウン及び隣接するフラワータウンが抱える基本的な課題を把握できる立場にある。又、業務の過程で関係者（含居住者）からのヒアリングも随

時行っており、そのような観点から、後述するアンケート結果を見た場合、おおよそ傾向を把握できているものと思われる。

- 3) WT, FTの施設配置は、共に新住法に基づき、近隣住区構成（WT, FTとも4住区）となっている。WTは1地区センター・1サブセンター・8近隣センター等が、FTは1地区センター・2近隣センターが計画されている。調査時点で、WTは地区センターは未完、サブセンターは概成（主として商業系）、近隣センター等は未完が多い。FTは地区センター、近隣センター共に概成（主として商業系）。これ以外は、新住法第32条による土地利用規制解除後に幹線道路沿いや住宅地内に自然発生的に形成された「街角施設」が有る。
- 4) 配布時点での戸当たり家族数を「居住人口／住戸数」から推計したところ、WTで約3.30人／戸、FTで約3.59人／戸であったので、各戸個人用を4部ずつ配布した。
- 5) WT, FTに対するアンケート調査は第1、2報と同じ調査であり、芦屋全体に対するアンケート調査は第2報と同じ調査である。
- 6) 調査後、居住者にヒアリングを試みた。その結果から、①同時期に入居し、既に30年前後が経っており、もともと地の人が居ないため、居住者間で仲がいい、②芦屋市NT以外と比較して自治会が充実しており、運動会、子供会などのイベントが活発である、といったことが結果に結びついているのではないかと推測される。

参考文献

- 1) 三好庸隆、柏原士郎、吉村英祐、横田隆司、飯田匡、川村崇：三田市ウディタウン等における居住者の地域活動への参加意向等の分析—郊外ニュータウンの持続的発展方策に関する基礎的研究（その3）—、日本建築学会地域施設計画研究、No.21, pp.77-85, 2003.7
- 2) 三好庸隆、柏原士郎、吉村英祐、横田隆司、飯田弘一、川村崇：兵庫県三田市のニュータウンにおける居住意識構造の分析—郊外ニュータウンの持続的発展方策に関する基礎的研究—、日本建築学会計画系論文集、No.571, pp.1-8, 2003.9
- 3) 三好庸隆、柏原士郎、吉村英祐、横田隆司、飯田匡、川村崇：兵庫県三田市のニュータウンにおける地域施設の利用満足度と施設要求—郊外ニュータウンの持続的発展方策に関する基礎的研究（その2）—、日本建築学会計画系論文集、No.582, 2004.8（掲載予定）
- 4) 久保妙子、西村一朗、今井範子、裴羅美：千里ニュータウンにおける高齢化社会に対応した住環境に関する研究—その3、コミュニティ生活と施設要求、日本建築学会大会学術講演梗概集（中国）、E, pp.71-72, 1990.10
- 5) 伊東康子、高田光雄：千里ニュータウンにおける高齢者の親族関係とコミュニティ活動に関する事例研究、日本建築学会大会学術講演梗概集（関東）、F-1, pp.269-270, 1997.10
- 6) 影山徳波：郊外居住と地域活動—ジェンダーの視点から、都市住宅学、No.30, pp.19-25, 2000.6
- 7) 畑正純：高齢社会におけるコミュニティの活性化支援に関する調査研究、調査研究期報（都市基盤整備公団総合研究所）、No.128, pp.20-23, 2001.9
- 8) 北川文雄：郊外ニュータウンにおける共助活動支援に関する調査、調査研究期報（都市基盤整備公団総合研究所）、No.136, pp.30-33, 2003.9
- 9) 水野優子、角野幸博：ニュータウンにおけるコミュニティ形成のための地域活動の役割と現状、日本建築学会近畿支部、Vol.43・計画系、pp.25-28, 2003.6
- 10) 小谷良子：専業主婦のネットワーク参加意識とネットワーク形成の有効性—大都市近郊のニュータウンにおける調査に基づく考察、日本家政学会、vol.54, No.6, pp.427-439, 2003
- 11) 小谷良子：専業主婦の社会活動と所属地域集団・社会活動団体にみる自立と共同の方向性—大都市近郊のニュータウン調査にみられる傾向、日本家政学会、vol.55, No.6, pp.465-477, 2004
- 12) 海道清信：名古屋都市圏における郊外住宅団地居住者の住環境評価と定住意識—郊外居住地の持続可能性に関する研究、日本建築学会大会学術講演梗概集（北海道）、F-1, 2004.8
- 13) 横田隆司、柏原士郎、三好庸隆、吉村英祐、飯田匡、伊丹康二、川村崇、小島幸子：兵庫県芦屋市における地区特異性にみた居住者の地域施設の利用実態と住環境の評価構造について—郊外ニュータウンの持続的発展方策に関する基礎的研究（その2）—日本建築学会地域施設計画研究、No.20, pp.47-54, 2002.7

（2004年6月8日原稿受理、2004年11月4日採用決定）